

解説2 モノづくりを牽引する Autodesk Inventorの新機能 ～シェイプ ジェネレータ～

オートデスク 関屋 多門*

*せきや たもん：技術営業本部 テクニカルセールスエンジニア

はじめに

オートデスクは「“The Future of Making Things”～ものづくりの未来～」を取組みのテーマに置き、新しい時代のモノづくりを支援する機能を続々と3次元CAD「Autodesk Inventor」に搭載している。たとえば、形状最適化機能「シェイプ ジェネレータ」はその1つであり、3Dプリンターで製造することを前提にした設計手法が可能になった。もちろん、同機能は既存の生産技術で製造する製品の設計にも対応しており、モノづくりユーザーの現状に即したソリューションとなっている。以下では当社の機能強化に対する方針を概説するとともに、3Dプリンターに対応した新しいモノづくりを支援する機能について解説する。

当社ソフトウェアの機能強化の背景

機能強化は時代の流れに合わせて行っているわけではない。当社は製造業界以外の建築・土木業界、CG/映像制作業界など多業種にソリューションを提供しており、さまざまな分野の知見や近い将来を見据えた情報を得られる。また、米サンフランシスコにあるデジタル工房 Workshop Pier9 にアーティストやデザイナーを短期間迎え入れてプロジェクトを行ってもらったり、ユーザーからの要望を受け入れたりするシステムやイベントな

どを通じて新機能を開発し、モノづくりを牽引する現実的なソリューションを提供している(写真)。

「The Future of Making Things ～ものづくりの未来～」を提案するために、新しいテクノロジーを利用するユーザーの利用環境も大事だとオートデスクは考えている。有効なテクノロジーであっても利用してもらえないのでは意味がないからだ。そこでクラウド コンピューティング パワーを利用したモノづくりのワークフローの提案、製造業における新たなテクノロジーの活用など、将来のモノづくりに対応するワークフローを今後も提唱していく。

顧客需要に対応するカスタマイズ、製品販売後も顧客満足度を上げるサービスの提供などは、既存の生産方法のワークフローでは実現が難しいが、既に多くのユーザーが直面しており、待たなしの状態だ。ただ、これらを取り入れて業務に生か



写真 多岐にわたる工作機器、デジタルファブリケーションツールを擁し、アーティスト、メイカー、ファブリケーターにワークショップを提供する Workshop Pier9